

■修理を依頼される前に

●動作に異常があると思われる場合は下記の点検を行なってください。 ●羽根が回転することにより、横揺れが起きる場合がありますが故障ではありません。		
現 象	考えられる原因	処 置
本体のゆれが大きい 振動している	羽根が破損している	壁スイッチをOFFにして、羽根に破損がないかを確認してください。破損している場合は、工事店・電器店、別紙サービスセンターにご相談ください。
	本体押しネジの締め付けが不十分、または不均等になっている	■施工手順1～4を参照して、取り付け直してください。取り付け直しても改善しない場合は、工事店・電器店、別紙サービスセンターにご相談ください。
処置した後になお異常がある場合は、必ず電源を切り、工事店・電器店、別紙サービスセンターにご相談ください。		

● 器具の取外しは工事店・電器店に依頼してください。→感電の原因になります。

■使用上のご注意

- 羽根が回転することにより、横揺れが起きる場合がありますが故障ではありません。

■器具のお手入れ △注意 器具のお手入れの際は安全のため電源を切ってください。感電の原因になります。

- 明るく安全に使用していただくために6ヶ月に1回程度の清掃・点検をしてください。
- 器具の汚れは乾いた柔らかい布か薄めた中性洗剤を浸透させた柔らかい布をよく絞ってから拭き取ってください。シンナーやベンジンなどの揮発性のもので拭いたり、殺虫剤をかけたりしないでください。また、薄めた中性洗剤を使用した場合は、洗剤が残らないよう、よく拭き取ってください。変質・故障の原因になります。

コイズミ照明器具 保証書		※お客様へ 保証書の記載内容をよくお読みいただき、販売店様発行の領収書と合わせて大切に保管してください。
< 保 証 に つ い て > 1. 取扱説明書、本体添付ラベルなどの注意書きに沿った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理させていただきます。 2. 保証期間は製品お買い上げ日より1年間です。但し、LED電源、LEDモジュール、LED電球は3年間です。 3. グロー一点灯管・電池などの消耗品は、対象外といたします。 4. 24時間連続使用など、1日20時間以上の長時間使用の場合は上記の半分の期間とします。 5. 保証期間でも次の場合には、 △ として有料にさせていただきます。 (1)使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷 (2)お買い上げ後の取り付け場所の移設、輸送、落下などによる故障及び損傷 (3)火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、異常電圧、指定外の使用電源(電圧、周波数)などによる故障及び損傷 (4)車両、船舶などに搭載された場合に生ずる故障及び損傷 (5)施工上の不備に起因する故障や不具合 (6)法令、取扱説明書で要求される保守点検を行わないことによる故障及び損傷 (7)保証書及び領収書あるいは販売店様発行の保証書のご提示のない場合 6. 保証書は日本国内においてのみ有効です。 7. 保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。		<アフターサービスについて> 1. 保証期間中に万一故障がおきた場合は、保証書を添えて、お買い上げの販売店・工事店までお申し出ください。 2. 保証期間を過ぎていたときは、お買い上げの販売店・工事店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。 3. 販売店・工事店にご依頼にならない場合や修理についてのご相談は弊社サービスセンターにご連絡ください。 4. 弊社は照明器具の補修用性能部品を製造打ち切り後最低6年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。従いまして主に電気部品が中心でセードなどの意匠部品は対象外です。 ※保証書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理や、製品・修理に関するご相談並びにご不明な点は、お買い上げの販売店・工事店または別紙記載の「コイズミ照明「お客様相談室」・サービスセンター」にお問合せください。
保証期間(お引き渡し日より) 本体:1年間 LED電源/モジュール/LED電球:3年間 お買上年月日		取扱販売店名・工事店名・住所・電話番号
お	お名前	
客	ご住所	
様	電話 ()	

コイズミ照明株式会社

KOIZUMI コイズミ照明器具

施工取扱説明書

型 番 AM44847E・AM46422E

お客様へ

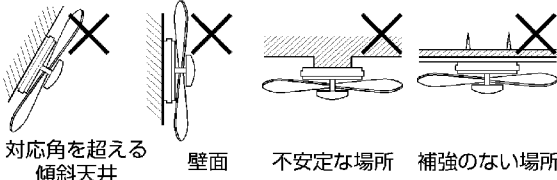
器具の取付けの際、電気工事は工事店・電器店へ依頼してください。一般の方の電気工事は法律で禁止されています。

保存用

工事店様へ

施工前には、この説明書をよくご覧の上、正しく施工してください。この説明書は必ずお客様へお渡しください。

【安全上のご注意】

⚠ 警 告		この表示を無視して誤った取り扱いをすると死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。	
⚡ 厳守	器具の取付けは、説明書に従い確実に行ってください。→器具の取付けに不備があると火災・感電・落下によるけがの原因になります。	🚫 分解禁止	器具を改造したり、部品を追加・変更して使用しないでください。→火災・感電・落下によるけがの原因になります。
🚫 禁止	このような場所には取付けないでください。この器具は天井取付専用器具です。壁などには取付けできません。傾斜天井に取付ける場合は部品に応じた傾斜角に取付けてください。不安定な場所や石膏ボード、ベニヤ板などの強度の弱い場所、使用後のネジ穴には取付けないでください。→器具の落下によるけがの原因になります。 	🚫 禁止	扇風機運転中は羽根に触れないでください。→落下や破損によるけがの原因になります。
			器具のすきまや放熱穴などに金属類を差し込まないでください。→感電・故障の原因になります。
			器具を布や紙などでおおって使用しないでください。→火災の原因になります。
⚡ 厳守	埋込ボックスに取付ける場合は、金属製のものをご使用ください。→樹脂製ボックスの場合、器具の熱伝導により、樹脂の劣化が促進され火災・落下によるけがの原因になります。	⚡ 厳守	異常を感じた場合は、速やかに電源を切ってください。→放置しますと火災・落下によるけがの原因になります。工事店・電器店にご相談ください。

⚠ 注 意		この表示を無視して誤った取り扱いをすると傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。	
🚫 接触禁止	運転中や運転直後は器具が高温のため触らないでください。→やけどの原因になります。	🚫 禁止	風を長時間、体にあてないでください。→健康を害することがあります。
🚫 水ぬれ禁止	この器具は非防水です。湿気が多い場所や屋外では使用できません。→火災・感電の原因になります。		器具の下にストーブなどの高温のものを置かないでください。また、燃えやすいものを近づけて使用しないでください。→火災の原因になります。
🚫 禁止	ライトコントローラなどの調光器との併用はできません。→火災の原因になります。調光器の取外しが必要です。調光器の取外しには資格が必要です。工事店・電器店に依頼してください。	⚡ 厳守	表示された電源電圧(AC100V)以外の電源で使用しないでください。→火災・感電の原因になります。
	周囲温度5～35℃、湿度45～85%の環境以外では使用しないでください。→火災・感電の原因になります。		器具の寿命は、使用条件、使用環境で異なりますが、一般的な使用状態で8～10年が目安です。数年に1回は、専門家(工事店・電器店)による点検を実施していただき、不具合がありましたら適切な処置を施してください。→放置すると、火災・感電・故障の原因になります。
	アームなどの可動部のすきまに指を入れないでください。→けがの原因になります。		

■定格

型 番	定格電圧	周波数	消費電力(HI・強)		重量
			50Hz	60Hz	
AM44847E	AC100V	50/60Hz共用	36W	46W	5.3kg
AM46422E			29W	32W	4.6kg

■仕様(回転方向:下向き)

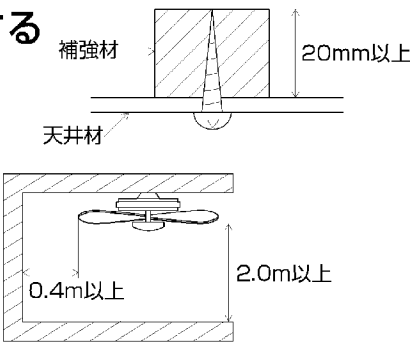
型番	電圧(V)	周波数(Hz)	回転数(rpm)		風速(m/min)	風量(m³/min)	消費電力(W)	
AM44847E	AC100V	50	HI(強)	165	91	122	36	
			MI(中)	95	51	61	13	
			Lo(弱)	41	20	21	3	
		60	HI(強)	185	98	142	46	
			MI(中)	99	54	65	13	
			Lo(弱)	45	24	26	4	
AM46422E			50	HI(強)	208	80	70	29
				MI(中)	144	53	46	13
				Lo(弱)	60	16	15	4
	60		HI(強)	253	93	81	32	
			MI(中)	165	57	51	14	
			Lo(弱)	76	22	18	5	

※電圧特性、羽根の重量および室温の変化により回転数は±15%の範囲で、誤差が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。(回転数は室温25度にて測定)
※風速、風量は、器具最下面での測定値です。

■施工前の確認

1 器具重量に耐えられるよう、取付部の強度を確保する

取付ネジを補強材に20mm以上ねじ込めるようにする。



2 設置場所を確認する

- 羽根が回転する時、人・家具・壁その他インテリアに当たらないように取付ける。
- 雨や水しぶきのかかる場所、直射日光の当たる場所には取付けない。
- ホコリの多い場所、酸・アルカリ・油を使う場所には取付けない。

3 必ず同梱の部品を使用する

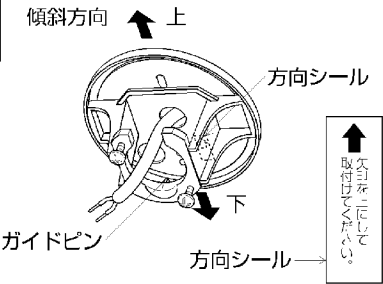
別売の延長パイプは指定のものをご使用ください。羽根は同じ重量のものをセットしていますが、羽根のバランスなどにより本体が多少ゆれることがあります。

4 傾斜天井に取付ける場合

対応する傾斜角は別売の延長パイプの有無により異なります。傾斜角に応じて部品を使用してください。

	AM44847E	AM46422E
延長パイプを使用しない場合	傾斜角8°まで	傾斜角11°まで
30cm延長パイプ(別売)を使用する場合 (AE40387E)	傾斜角23°まで	傾斜角29°まで
60cm延長パイプ(別売)を使用する場合 (AEE590057)	傾斜角39°まで	

※取付金具が傾斜方向に対して右図のように、矢印の方向を上にしてガイドピンが下になるように取付けてください。



5 取付面がクロス貼りの場合

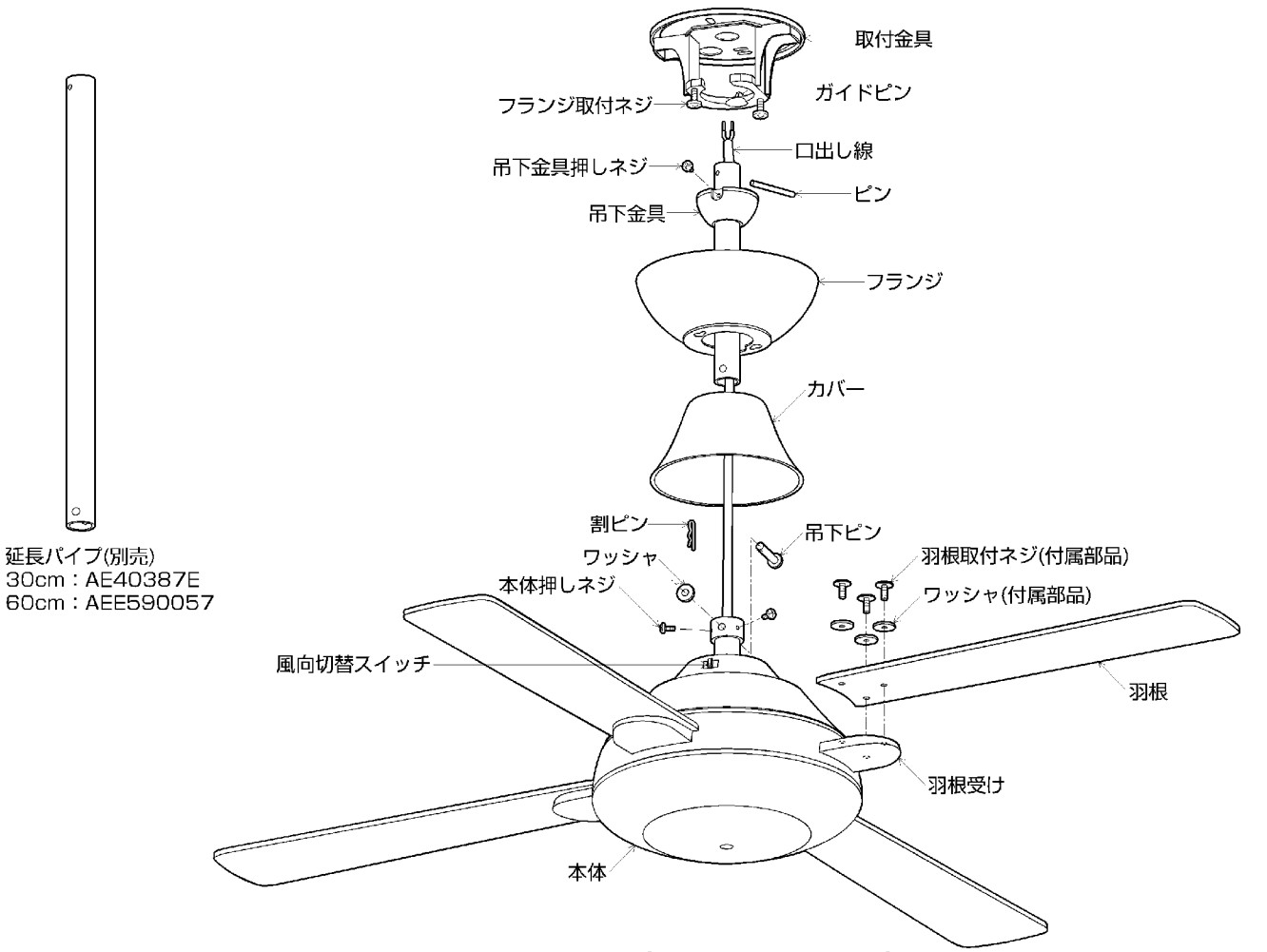
接着剤が十分に乾燥してから器具を取付ける。
変色やサビの原因になります。

6 施工の際には付属のコントローラを壁に設置する

必ず付属のコントローラを設置する。
コントローラを設置しないとインテリアファンは強回転で回り続けます。

■施工手順 △注意 取付けの際は必ず電源を切ってください。感電の原因になります。

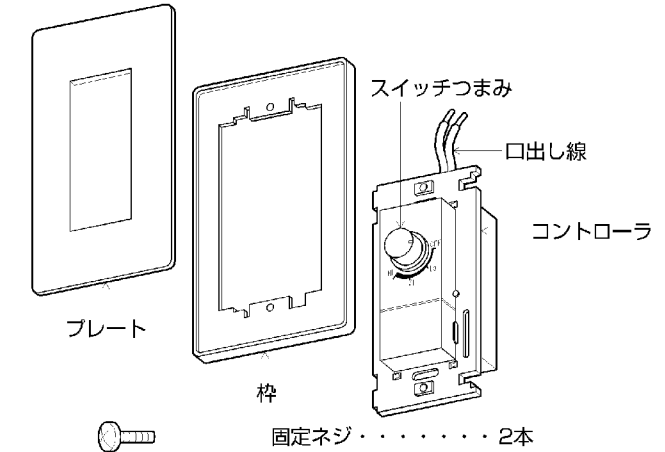
※この図は一部抽象化した共通部品図です。
※部品の有無・損傷を確認し、不備の際は取付けないでください。
※延長パイプを使用した際、羽根が回転することにより、横揺れが起きる場合がありますが故障ではありません。



〈付属部品〉

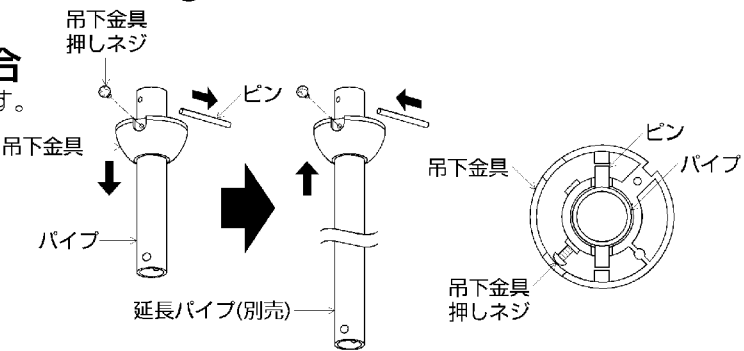
- 取付ネジ・・・4本
- 羽根取付ネジ・・・12本(予備1本)
- ワッシャ・・・12枚(予備1枚)

〈コントローラー式〉



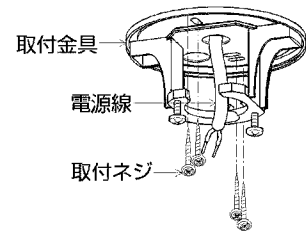
1 延長パイプ(別売)を使用する場合

■施工手順4を参考に、パイプを本体より取外す。
吊下金具押しネジをゆるめ、吊下金具とピンをパイプから取外す。
ピンと吊下金具を延長パイプ(別売)に通し、吊下金具押しネジで取付ける。



2 取付金具を取付ける

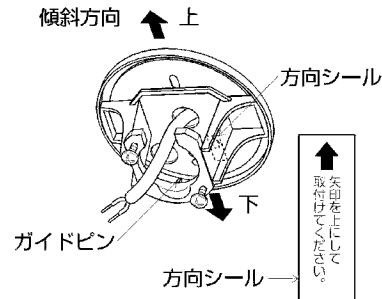
取付金具に電源線を通し、取付ネジ4本で取付ける。



<傾斜天井に取付ける場合>

右図のように、傾斜天井に対して、取付金具のガイドピンが下になるように取付ける。

	AM44847E	AM46422E
延長パイプを使用しない場合	傾斜角8°まで	傾斜角11°まで
30cm延長パイプ(別売)を使用する場合 (AE40387E)	傾斜角23°まで	傾斜角29°まで
60cm延長パイプ(別売)を使用する場合 (AEE590057)	傾斜角39°まで	



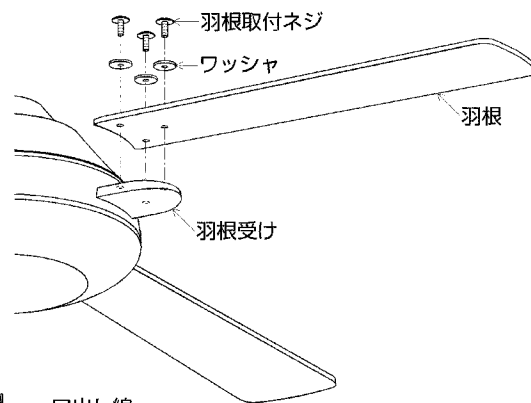
3 羽根を取付ける

(床面で作業の方が楽にできます。)

羽根を羽根受けに合わせ、付属のワッシャ3枚、羽根取付ネジ3本で確実に取付ける。

※取付けは確実にこなってください。締め付けが不十分な場合は、ガタツキまたは事故の原因になります。

※羽根固定金具について、固定を確実に実施し固定に緩みがある場合は、ネジを再度締め付け直してください。



4 吊下金具を取付ける

①パイプから割ピン、ワッシャ、吊下ピンを取外す。

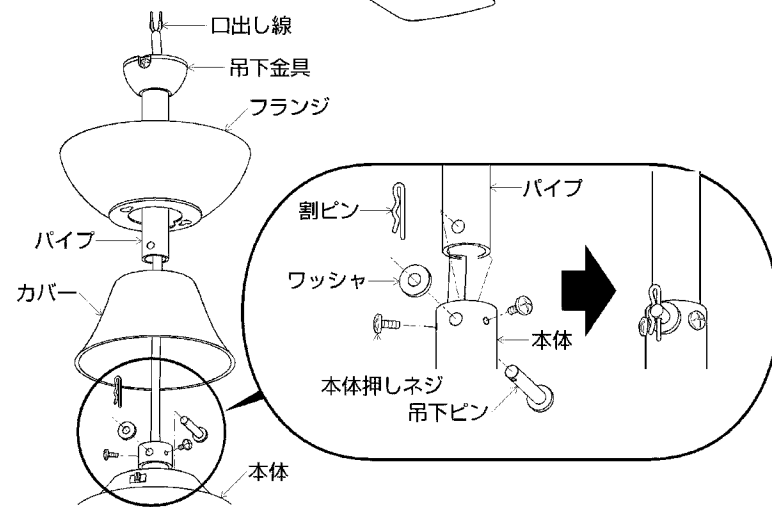
②吊下金具にフランジ、カバー、本体の口出し線を通す。

③パイプを本体に合わせ、吊下ピン、ワッシャ、割ピンで取付ける。

④本体押しネジ2本を締め付け、パイプを本体に固定する。

※取付けは確実にこなしてください。締め付けが不十分な場合は、ガタツキの原因になります。

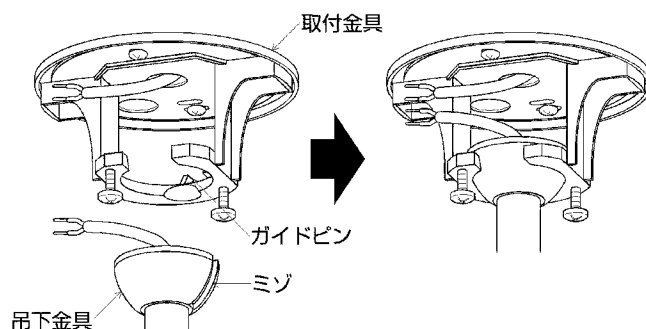
※本体押しネジは均等に締め付けてください。ガタツキの原因になります。



5 本体を取付ける

吊下金具のミゾを取付金具のガイドピンに合わせてはめ込む。

※ミゾとガイドピンを確実にはめ合わせてください。はめ合わせが不確実な場合は、ガタツキ・落下によるけがの原因になります。



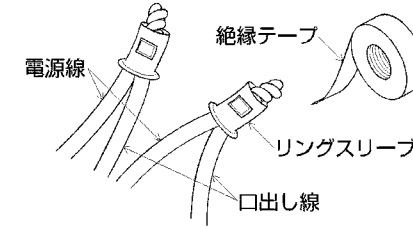
6 電源線を接続する

電源線と口出し線を実際に接続し、絶縁テープなどで絶縁処理を行なう。

※■配線方法についての配線例に従って接続してください。

壁スイッチ(別売)にて風向き切り替えを行わない場合は、茶と紫の線を絶縁テープなどで別々に絶縁処理を行なってください。

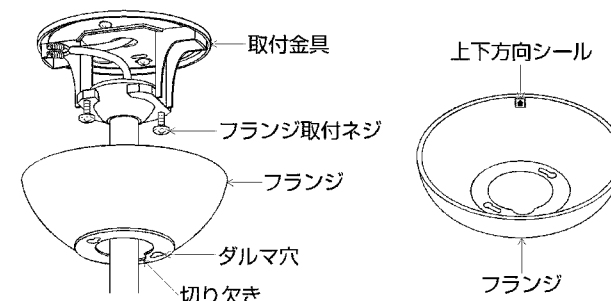
△警告 電源の接続を確実にこなしてください。接続が不完全な場合は火災の原因になります。



7 フランジを取付ける

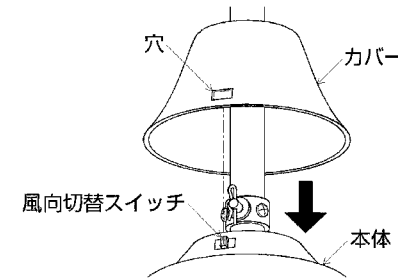
フランジの切り欠き側を取付金具のガイドピンに合わせ、フランジをフランジ取付ネジで取付ける。

※傾斜天井に取付ける場合は、フランジ内側の上下方向シールが上側になるように取付けてください。



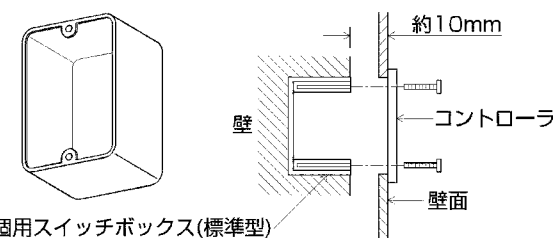
8 カバーを取付ける

カバーの穴を風向切替スイッチに合わせてはめ込む。



9 スイッチボックスを取付ける

1個用スイッチボックス(市販品)を使用する。スイッチボックスを壁面より10mm奥に固定する。



金属製スイッチボックス1個用(標準型またはカバー付):JIS C 8340
樹脂製スイッチボックス1個用(標準型):JIS C 8435

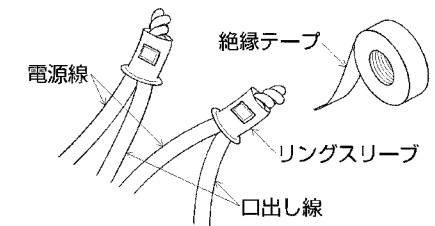
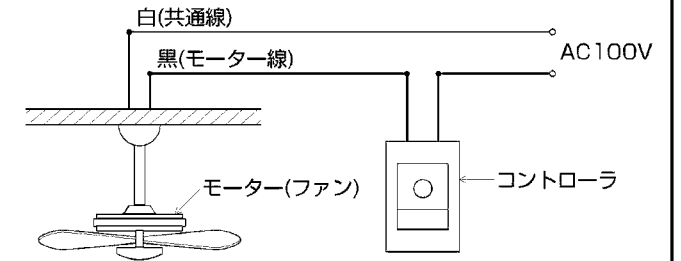
10 電源線を接続する

電源線とコントローラの口出し線、本体の口出し線とを下図に合わせて確実に接続し、絶縁テープなどで絶縁処理を行なう。

※コントローラ1台にモーター1台のみ接続できます。

△警告 電源の接続を確実にこなってください。接続が不完全な場合は火災の原因になります。

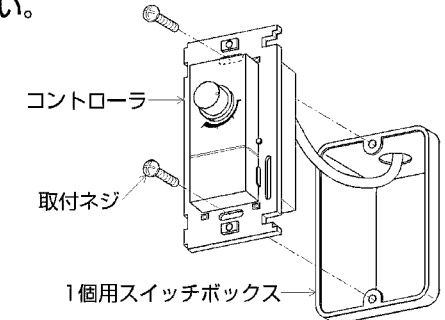
<配線図>



11 コントローラを取付ける

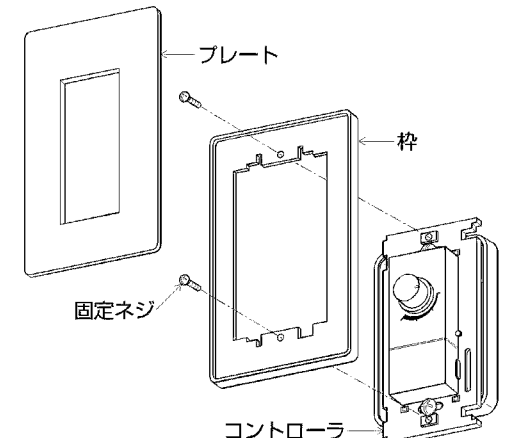
コントローラをスイッチボックス(市販品)に合わせ、取付ネジ(市販品)で取付ける。

※コントローラが変形しないように取付けてください。



12 枠・プレートを取付ける

枠をコントローラに合わせ、固定ネジで取付ける。プレートを枠にはめ込む。



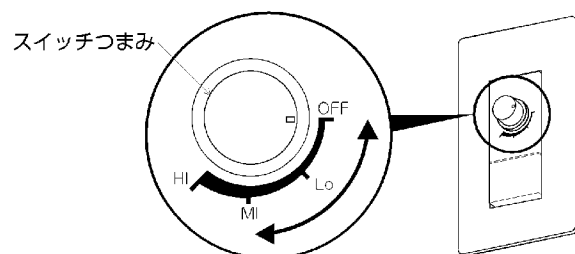
13 取付けおよび羽根の回転の確認を行なう

- ①取付金具の取付にガタツキがないか？→■**施工手順2**の取付ネジを十分締め付けているか
- ②羽根のブレがないか？→■**施工手順3**の羽根取付ネジを十分締め付けているか
- ③本体のブレ、回転がないか？
→■**施工手順1**の吊下金具押しネジ、■**施工手順4**の本体押しネジを十分締め付けているか
■**施工手順5**の吊下金具のミゾに取付金具のガイドピンを確実にはめ込んでいるか
(羽根のバランスなどにより多少揺れることがあります。)
- ④ガタツキ音・コスレ音がないか？→■**施工手順1～4、7**の各ネジは十分締め付けているか

■回転速度の切り替えについて

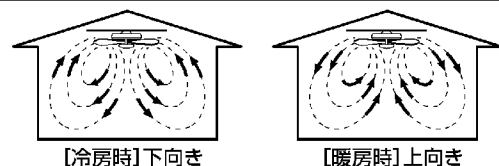
コントローラのスイッチつまみを回すと、回転速度が切り替ります。

HI ↔ MI ↔ Lo ↔ OFF
(強) (中) (弱) (切)



■風向き切り替えについて

ファン本体の風向切替スイッチもしくは壁スイッチ(別売)にて上向きの風、下向きの風が選択できます。(設定方向は下記■**配線方法について**を参照してください。)[「上」]にすると部屋全体にゆっくりとした風を送り、部屋の空気をかくはんします(冬)。また、「下」にすると、直接風が当たり、涼しさが増します(春夏秋)。



■配線方法について

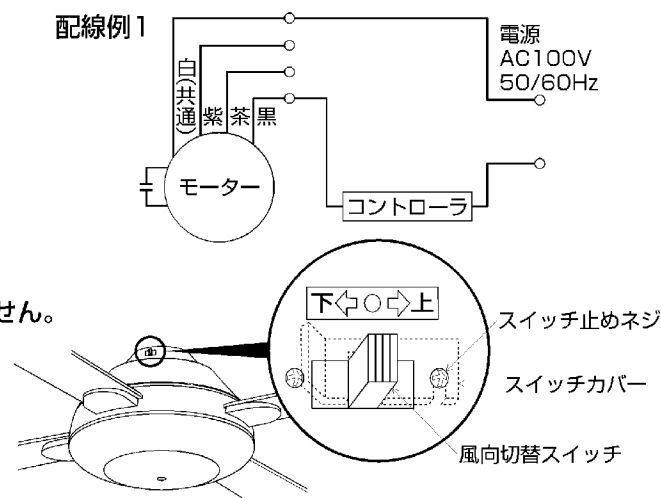
組み合わせ	ファン回転切替	風向切替	
	コントローラ	本 体	壁スイッチ (別売)
配 線 例 1	○	○	
配 線 例 2	○		○

配線例1<ファン本体で風向き切り替えする場合>

風向切替スイッチにて上下、ご使用の方向に切り替えてください。

- ①右側のスイッチ止めネジをゆるめる。
- ②スイッチカバーの左の端を引っ張り、スイッチカバーを取外す。
- ③スイッチのネジを元通りに締め付ける。

※スイッチの位置が○印の位置ではモーターは始動しません。



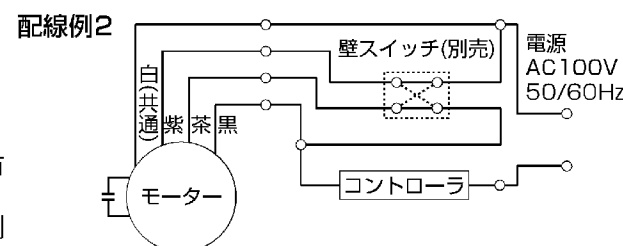
配線例2<別売の壁スイッチで風向き切り替えする場合>

スイッチカバーをはずさず、そのままご使用ください。

※スイッチカバーを取外してスイッチを○印以外の位置でご使用になりますとショートしますのでご注意ください。

<ご注意>

- ①ファンの風向きの切り替えを壁スイッチで行なう場合、市販品の四路スイッチをご使用ください。
- ②風向切替スイッチは本体にも組み込まれていますので壁側での切り替えの必要がない場合は壁スイッチは不要です。
- ③コントローラは当社のインテリアファン専用部品です。



■長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について

(本体への表示内容)

- 経年劣化により危害の発生が高まるおそれがあることを注意喚起するために電気用品安全法で義務付けられた以下の内容の表示を本体に行っています。

【製造年】本体に西暦4桁で表示してあります。



【設計上の標準使用期間】 15年
設計上の標準使用期間を超えてお使いいただいた場合は、経年劣化による発火・けがなどの事故に至るおそれがあります。
※当該期間は扇風機機能について設定したものです。

(設計上の標準使用期間とは)

- 運転時間や温湿度など、標準的な使用条件に基づく経年劣化に対して、製造した年から安全上支障なく使用することができる標準的な期間です。
- 設計上の標準使用期間は、無償保証期間とは異なります。また偶発的な故障を保障するものでもありません。

■標準的な使用条件 日本工業規格 JIS C9921-1による

環境条件	電圧		単相100V又は 単相200V	製品の定格電圧による。
	周波数		50Hz及び/ 又は60Hz	
	温度		30℃	
	湿度		65%	
	設置		標準設置	製品の取扱説明書・据付説明書による
負荷条件	定格負荷(風速)			製品の取扱説明書による。
想定時間など	扇風機 (壁掛け扇、天井 旋回扇を含む。)	運転時間	8h/日	
		運転回数	5回/日	
		運転日数	110日/年	
		スイッチ操作回数	550回/年	
		首振運転の割合	100%	
	天井扇	運転時間	10h/日	
		運転回数	5回/日	
		運転日数	180日/年	
		スイッチ操作回数	900回/年	
		首振運転の割合	規定しない。	

注記 環境条件の湿度65%は、JIS Z 8703 の試験状態を参考としている。

注記 環境条件の湿度65%は、JIS Z 8703 の試験状態を参考としている。

- 「経年劣化とは」
長期間にわたる使用や放置にともない生じる劣化をいいます。

※上記の「長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示」は、電気用品安全法の改正に基づき、2009年4月以降生産の製品に記載しています。